

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下

山 名	へんろころがし 勝山寺 720m			山行名	個人山行				
ルート	徳島県鴨島駅→11 番札所藤井寺→12 番札所→杖杉庵→(タクシー)→13 番側の宿								
山行日	2025, 11, 27			天 候	晴れ				
参加者	リーダー： 山下 男性：藤井、 女性：上田			サブリーダー：小川 合計：4 名					
ルート概略図 <div><div><div>↑ N</div><div>JR 徳島線鴨島駅</div><div>↓</div><div>11 番 藤井寺 30m</div><div>↓</div><div>長戸庵(チュウズアン) 440m</div><div>↓</div><div>柳水庵 500m</div><div>↓</div><div>左右内集落 400m</div><div>↓</div><div>12 番焼山寺 720m</div><div>↓</div><div>杖杉庵 (ジョウシンアン) 440m</div><div>↓</div><div>タクシーで 13 番隣の宿</div></div></div>				コースタイム					
				地名		時:分	地名		時:分
				宿	集		左右内集落	着	13:40
					発	5:55		発	13:50
				11 番札所。 藤井寺	着	6:50	12 番札所 焼 山寺	着	15:00
					発	7:10		発	15:30
				橋山休憩所	着	7:45	杖杉庵	着	16:00
				長戸庵	着	9:00		発	16:10
柳水庵	着	10:37	タクシーで宿 へ	着	16:40				
	発	11:02		発					

四国 88ヶ所巡礼のまず初に「発心の道場」徳島県での4泊5日の巡礼の旅を実施した。一番から 20 番札所まで、約 90km の難行だった。山友会会員としては当然歩き遍路。厳しい遍路路は「遍路ころがし」といわれていて、一に「焼山」、二にお鶴、三に太龍と言われ、今回のコースには共に含まれている。藤井寺から「焼山」の一日を報告する。焼山寺は標高 720m、累積標高差 1100m で6個の難所があった。鴨島駅前ホテルからヘッドランプをつけて街中を藤井寺に向かう。8 時にならぬと納経所は開かないので、記帳無しでいよいよ山中の焼山寺に向かう。3日目の本日も快晴にめぐまれた事に感謝しつつ落ち葉の道を登る。歴史街道ゆえ 徳島県作成の標識のみならず個人やボランティアグループが設置した標識が沢山あるので、道迷いをする事は少ない。道はなだらか道・階段道・荒れた登山道・じみちや舗装と様々あり、トレッキングシューズが望ましい。柳水庵を過ぎたところで中間の靴底が剥がれ、以降難行・苦行が始まることになった。

今回は小休憩をとりながら行動食でつなぎつつ登る。急登が多いので、登山時と同様に15～20 分置きに休憩しないと ころがされてしまいそうだった。

左右内集落到いた時は 歩き始めてすでに7時間 30 分 疲労感もある。12 番札所には更に 320m の急登があり、思案時だ。タクシー会社の看板もあり ここで止めてのエスケープもありえた。足の具合の悪い仲間もいたが、これからが修行の道だと 意見一致し、エネルギーを補給し頑張ることとした。12 番札所には9時間かかった。達成感に満たされながら山門をくぐる。さすがに展望は抜群だった。

途中で日本人は殆ど合わなかった。噂通り、外国人が多い。ドイツ・イタリア・アイルランド・スペイン等。約 10 人に道を譲る。女性の方が多い。陽気な仲間はその都度「ブエンカミーノ！」(スペイン語 よい巡礼を！)と挨拶。なかには日本語が達者な方もいた。皆、 心は同じなのですぐ打ち解けた。

スマホデータではは 3.78 万歩、26km。次回は来年の桜の頃に 高知県内の巡礼の予定です。

ヒヤリハット； 靴底はがれ。

感想文

藤井

修行でした！ 厳しい山道をへろへろになりながらの修行道でした。
般若心経を唱えられず心からのお供えが出来なかったのは、今後の大きな課題です。でも大きな声で般若心経を唱えるのは恥ずかしいです。

しかし反面、楽しいこともありました。何と言っても四国の風景。みかん類・柿などがたわわに実をつけ秋の深まりを実感。休耕田に植えられたコスモス、見事な秋を演出しています。寺々の大イチョウの黄色い大木。四国の秋です。

そして諸先輩との楽しい語らい。人生経験豊かな方々からのさりげないお言葉。胸にしみました。
今後ともよろしくおねがいします。



遍路の旅の主な写真



今回は発心道場と言われる阿波(徳島)編

徳島県には第1番の霊山寺から
第23番の薬王寺までであるが
今回は残念ながら第20番の鶴
林寺までとなった。



私がこの巡礼に参加しようと決めたのは山の仲間であるH氏が昨年暮れに74歳の若さで亡くなれば私も何時もお迎えが来るか分からないと思い始めた事と妻が亡くなり3年が過ぎ、供養を兼ねてお参りしようかなと考えたからであるが靴に嫌われ悪戦苦闘の連続であった。

初日は第一番札所の霊山寺を皮切りに順調に参拝できた。

2日目の昼過ぎから左足の親指の付け根が痛み出した。今回の巡礼に当たり、50年前に買ったゴルフシューズを履いてきたがスパイクの金具の一部が破損し、残った金具の一部が足裏を押し上げたためである。

今回の巡礼に何故、古いゴルフシューズを履いてきたのかはY氏もゴルフシューズで行くと聞き、平地と山道の両方があるため、それは良い考えだと思ったからである。但し、試しに甘南備山に履いて行き、両方の靴底が剥がれたため、自分で補修して再度甘南備山で試してOKとなったいわくつきの靴である。宿で自転車を借り、厚めの靴敷きを購入した。

3日目は朝6時に宿を出発し、11番札所の藤井寺に参拝し、遍路最大の難所である「遍路ころがしの峠越え」に向かった。中間に当たる柳水



庵で昼食を取り少し歩いた所で右足の靴の爪先部分からパクリと剥がれてしまったが、今回は荷物を少なくするため、いつも持っている応急処置の部材を置いてきてしまった。皆に色々手助けして貰い、太い針金と紐とテープで何とか応急処置を取り、無事12番札所の焼山寺に到着。その後、宿にて幅広のビニルテープを借り左側の靴も剥がれる恐れがあるので両方に巻き付けた。宿の周りにはコンビニ等何もない。

4日目は13番から19番と7寺廻るのだが、ビニルテープをきつく巻きすぎたため、両足の爪が痛くなり、17番目の井戸寺を過ぎた所に小さなスーパーがあったので幅広の綿テープを購入し、巻きなおしたが時すでに遅しで両足の爪部(5指)が青黒く変色してしまった。

5日目は最後の日で20番と21番を回る予定だったがここも3日目の遍路ころがしに次ぐ難所であり、今回は20番だけにして貰ったが、山頂の鶴林寺までは3キロの急勾配の山道が続き、今度は右足のかかとに5円玉程の擦り傷ができ、痛さをこらえ何とか参拝することができた。悪戦苦闘のお遍路でしたがまだまだ修行が足りないという弘法大師様の暖かいお心かと思い、最後まで挑戦していきたいと考えております。

登山靴のような**爪先がガッチリした靴ではない場合の対処方法**としては今回の方法も良いのではと考えご紹介いたします。

1. 径1.6mm程度の太さの針金の両端に輪を作る。
2. 紐を靴の幅に合わせ針金と結ぶ。
3. 針金が外れないように紐を通し、かかとに回して結ぶ。
4. 軽く幅広のテープにて余裕を持たせ巻き付ける。

